

内容 ~ 1.はじめに 2.「第二東名」から「新東名」へ
3.「名高田高架橋他1橋(下部工)工事」がはじまります。
4.埋蔵文化財調査はここまで進みました。

1.はじめに

中日本高速道路豊川工事事務所新城東工事区の工事長、鈴木でございます。矢部から有海にかけての新城市の北部地区にあたる区間を担当しています。

日頃から、私どもの新東名高速道路建設事業にご理解ご協力をいただきましてありがとうございます。それでは、今回も新東名高速道路建設の話題を沿線地区の皆様にお届けしたいと思います。

2.「第二東名」から「新東名」へ

「第二東名高速道路」、皆様におなじみとなったこの名前ですが、これは通称で呼び名です。正式には「第二東海自動車道横浜名古屋線」と言います。

私どもは今後「新たな物流、人々の交流を生み出す」施設としての期待を込め「新東名高速道路」と呼んで行きたいと思えます。そこで、これからは皆様にも「新東名高速道路」と呼んでいただきたいと思えます。

3.「名高田高架橋他1橋(下部工)工事」がはじまります。

富永から須長にかけての本線工事、「名高田高架橋他1橋(下部工)工事」がはじまります。

請負業者 株式会社オリエンタル白石 現場代理人(所長) 野澤稔治

契約工期 平成20年8月7日から平成23年4月6日まで



11月から着手する牛倉・大宮・須長地区につきましては工事説明会を開催しました。工事内容や工事中の安全対策などを説明し、地域の皆様からご意見を多数頂戴しました。意見を取り入れながら、安全に工事を進めるようにしてまいります。

工事説明会 / 牛倉10月24日(牛倉公民館)、大宮10月15日(大宮構造改善センター)
須長10月29日(須長公民館)

4. 埋蔵文化財調査はここまで進みました。

現在、新東名の工事に先立ち、埋蔵文化財調査を愛知県埋蔵文化財センターにて実施中です。

須長地区の「石岸遺跡」については、9月13日に現地見学会を実施。約60名の方に参加していただきました。

発掘調査の結果、縄文時代後期の竪穴住居、奈良時代の堀立柱建物などの遺構が見つかりました。「奈良時代の堀立柱建物は税であるお米を納める倉庫であったと考えられ、『石岸遺跡』はこの地を支配していた地方豪族の屋敷跡の一部と考えられています。」

(愛知県埋蔵文化財センター：石岸遺跡説明会資料より)



左：石岸遺跡B区(西側)上空から全景、右：出土した長首瓶(写真：愛知県埋蔵文化財センター)

大宮の加原遺跡の現地見学会を11月15日(土)午前10時から実施します。詳しくは新城市HPに掲載予定です。今後も地元の皆様を対象にした見学会を行ってまいります。

調査中 / 加原遺跡(大宮)：11月中旬まで、石座神社遺跡(大宮)、モリ下遺跡(八束穂)

調査完了 / 吉竹遺跡(牛倉)、石岸遺跡(須長)

今年度予定 / 柿下遺跡(富永)11月下旬から